



—東北生産性本部—

第39回仙台シンポジウム 11月例会開催

テーマ

「最近の事象から見るコンプライアンスの在り方」



■ 11月例会（平成28年11月2日開催）

講師 中央大学法科大学院 教授 野村修也氏

プロフィール

中央大学大学院博士後期課程を経て、1998年に中央大学法学部教授に就任、2004年から現職。
公職では、「金融庁法令順守調査室長」「内閣府経済財政諮問会議専門委員ほか、多くの公職に就く。
2011年に東京電力福島原子力発電所事故調査委員会委員として「事故調査報告書」の取りまとめにあたる。
テレビコメンテーターとしても多数出演。

『第39回仙台シンポジウム 11月例会』は、中央大学法科大学院教授の野村修也氏を迎え、約50名の参加を得て開催いたしました。

講演では、『我が国では、コーポレートガバナンスを日本語で「企業統治」、コンプライアンスを「法令順守」と訳している。日本人は、訳された日本語で理解し、ほんとうの意味を理解しないまま、間違った認識で運用している状況にある。

「守り」と「攻め」のガバナンス／コンプライアンス

ガバナンスの最近の流行語は「攻めと守り」と言われている。「ガバナンス」とは、統治するプロセスのことを言う。会社の中で管理するプロセスがうまく働いていないと、不祥事が発生して役員の責任が問われる。不祥事を起こさないように守りを固めようとするのが「守り」である。

「攻め」とは、アベノミクスの第三の矢で成長戦略にある「攻めのコーポレートガバナンス改革」である。会社法改正で施行された「コーポレートガバナンス・コード」には、会社利益を上げるために取締役には社外人材を活用すること、監査は内部統制を効かせること、ガバナンスの要に内部統制を位置づけることなどが記されている。

我が国のガバナンス／コンプライアンスの一番の失敗は「攻め」と「守り」を分けていること。「守り」だけだと社内ではコンプライアンス部署だけの仕事になる。「攻め」とは他部署も一緒になって、リスクを企業価値の維持という発想で未然防止すること。リスク管理の強さはブランド力に繋がる。また不祥事対応の広報力はダウンサイドリスクの最小化に繋がるので、「攻めと守り」を全社一丸となって取り組む必要がある。

不祥事防止と内部統制

内部統制は取締役がすべきもので、その責任は ①違反した本人とそれを監視していた人だけの責任ではなく、②内部統制の仕組みづくりを怠ったり、③仕組みを運用しないと取締役全員の責任となるという3層構造となっている。

会社法改正で監査役への内部通報制度導入が義務付けられ、内部統制の充実がはかられた。通報者が不利益取扱いを受けない体制確保は必須である。また、企業グループ全体に内部統制が効くようにしなければならず、親会社の取締役は、子会社の不祥事にも責任を負うということに変わってきている。

「コンプラ疲れ」はなぜ生ずるのか

我が国の最大の問題点は、内部統制の仕組みづくりがうまくいっていないことである。原因は、職員がコンプライアンスの意味を正確に理解していない⇒職員の主体的な取り組みが見られない⇒管理者が非効率な形式的ルールをつくる⇒それを職員が形だけ整える⇒管理者は事後点検で形が整っていればよい、という悪循環の繰り返しで、仕事が増える割には効果がないという状態になっている。

コンプライアンスに法律は関係ない。その定義とは、リスク管理であり、リスクを未然に防止するための体系・体制を構築して、それを機能発揮させることでリスクを防止するという考え方である。それを企業の中で部課係それぞれの中で運用および PDCA を回し、会社全体として渦のように回されていることが理想であり、それが収益性に繋がるものと信じている。

不祥事対応

不祥事発覚の契機のほとんどは内部告発である。自分たちの仕事の中にコンプライアンスを作り出していくという主体的な取り組みがあれば告発はない。また、公表は確実に行うこと。原因究明を内部調査にするか、第三者調査にするかは見極めること。調査は再生のチャンスなので、中途半端に行ってはいけない。』と締め括りました。

以上のように、これからのガバナンス／コンプライアンスのあり様について、分かりやすく解説いただき、大変有意義な講演会となりました。

平成 28 年度「第 39 回仙台シンポジウム」のご案内

* 会場：仙台商工会議所会館 7 階 大会議室

12 月例会 平成 28 年 12 月 1 日（木）13:30～15:00

『2017 年世界の潮流を読む』

講師：一般財団法人日本総合研究所 理事長 寺島 実郎 氏

3 月特別例会 平成 29 年 3 月 16 日（水）13:30～15:00

『三越伊勢丹 ブランド力の神髄』～創造と破壊はすべて「現場」から始まる～

講師：(株)三越伊勢丹ホールディングス代表取締役社長

(株)三越伊勢丹代表取締役社長 大西 洋 氏

* 会場は仙台商工会議所会館 7 階大会議室、時間帯は 13 時 30 から 15 時です。参加ご希望の方は、東北生産性本部（TEL 022-261-0411）までご連絡ください。